

## 七 その他の古墳

以上のように、発掘調査によつてその性格がある程度判明した古墳以外にも、分布調査によつてある程度内容や性格が判明している古墳が数多くある。

## 八景山山麓古墳群

八景山南東斜面の裾部付近に分布する六世紀後半から

七世紀初頭の群集墳である。国道四九六号（旧県

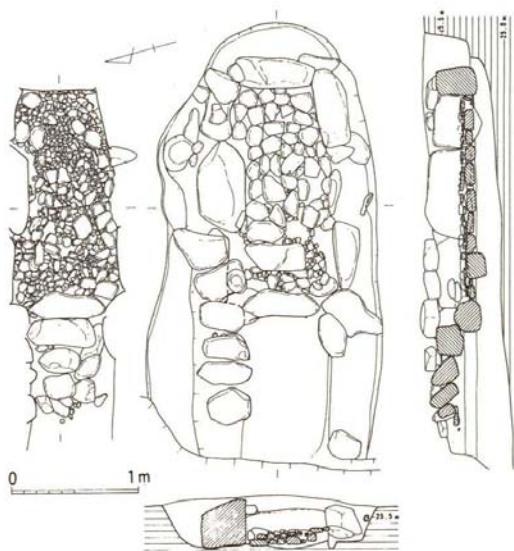
道行橋・山国線）や県道椎田・勝山線の拡幅工事、

八景山護国神社の参道改良工事などにより一部が

削平・消滅し、現存は七基である。大部分が複室の横穴石室で、墳丘はほぼ円形で直径五〇一七メートル程度である。

4号墳は本古墳群中最大で、墳丘は直径一七・三メートルで、高さは石室入口部を基準にして約八・五メートルを計る。内部主体は複室構造の横穴式石室で、玄室が長さ四メートル、幅二・三五メートル、高さ三・三〇メートルで、全長は約一〇メートルである。

6号墳は墳丘が直径一六・五メートルで、高さ約六メートルを計る。石室は前室が発達した複室の横穴石室で、玄室



第24図 鋤先遺跡3区2号墳石室実測図

が長さ二・〇メートル、幅一・二メートル、高さ二・二メートルで、全長は四・八メートルであるが、前面は削平されている。

### 八景山南古墳群

八景山参道入り口付近に分布する四基と、

西甲塚住宅の北東部にある一基の合計五

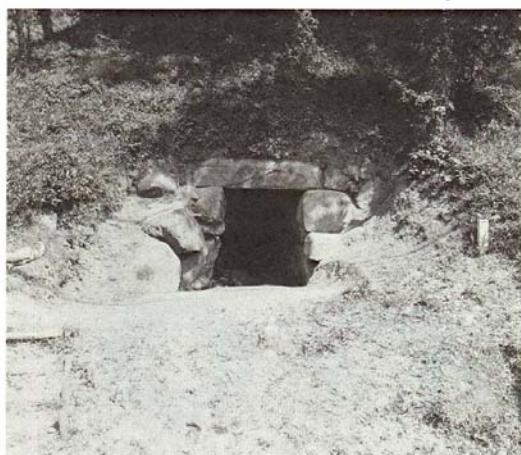
基からなる古墳群であるが、両者の中間に古墳が散在していた可能性がある。八景山側の四基はいずれも墳丘が直径一五メートルと推定される中型の円墳で、首長層の墓地を形成していたと考えられる。

3号墳は墳丘の周囲が開墾によつて削られているが、本来は直径二五メートル、高さ六メートルを超す円墳と考えられる。石室は巨石を使用した複室構造の横穴式石室で、六世紀の後半ごろの築造であろう。

4号墳は3号墳の南約一〇メートルに位置する、推定直径二〇メートルの円墳である。石室は大きく破壊されているが、巨石利用の複室横穴式石室で、六世紀の終末ごろのものであろう。

### 惣社古墳

祓川の沖積平野西端で南北に延びる惣社地区の丘陵の北部に立地する。豊津町内で唯一の前方後円墳で、墳丘は前方部が北側を向き全長約三〇メートルである。後円部は径約一七メートルで、内部主体は横穴式石室と考えられる。築造の時期は六世紀中葉から後半と推定される。



第25図 八景山山麓古墳群4号墳

## 尾花原地下

## 式横穴墓

長養池南東部の尾花原台地先端部近くの東縁部に位置する。天井部は陥没するが、床面は二メートル前後のやや楕円形を呈する。天井部は穹窿状で高さ約一・五メートルである。時期は不明。

## 甲塚北古墳

県指定彦徳甲塚古墳の北東約四〇メートルの山林中に所在する円墳である。墳丘の保存状態は良好で、頂上部が平坦で一段築造され、直径約一一〇メートル、高さ約七メートルを計り、周溝もめぐつてある。石室は東方に向かって開口する、巨石使用の複室横穴式石室である。玄室は長さ三・四メートル、幅二・九メートルの縦長の長方形プランをなし、前室は長さが玄室の約二分の一である。石室の全長は約一一・五メートルを計る。本古墳の築造時期は六世紀の終末ごろと考えられる。

## 彦徳横穴墓群

今川が犀川の盆地から京都平野に出る丘陵開析部の東側で、平成筑豊鉄道の豊津駅南東部の丘陵上

部斜面に分布する。

横穴墓は標高約四〇メートルのこの丘陵南東側と北西側の斜面に営まれている。数百基あるが、そのほとんどが盜掘され、二基のみが土取り工事の際に緊急調査された。調査によつて出土した遺物には、須恵器の杯や高杯、鉄鎌・刀子、耳環・水晶製勾玉・ガラス小玉などがある（第26図）。この二基の築造時期は六世紀後半であるが、遺跡全体としては五世紀から七世紀まで継続して営まれたものと思われる。



第26図 彦徳横穴墓出土装身具

### 村ノ上古墳

彦徳横穴墓群のなかに築造された円墳である。土取りで破壊されているが、墳丘は推定で直径約五メートル、高さ約一・五メートルの小型の古墳である。

### 新村ノ上古墳

彦徳甲塚古墳の南西約二〇〇メートルの位置で、心吉神社の神殿西側にある。墳丘は直径約五メートル、高さ約一・五メートルで、墳頂部には盜掘口がある。

### 高崎山古墳群

今川を挟んで彦徳横穴墓群の南西約五〇〇メートルに対峙する、円墳と横穴墓とからなる古墳群である。円墳は一基しか確認されていないが、横穴墓は数百基分布すると推定される。円墳は墳丘が直径約一〇メートル、高さ約一・五メートルで、内部主体は单室構造の横穴式石室で、玄室が一边約二・五メートルのほぼ正方形をなす。六世紀前半代の築造であろう。

横穴墓は彦徳横穴墓群とともに、西方の馬ヶ岳山塊から北東の行橋市竹並遺跡へ連続する硬い花崗岩バーラン土中に営まれた、数千基からなる大横穴墓群の一部である。五世紀から七世紀にかけての築造と考えられる。

### 荒谷古墳

豊津丘陵の中央部の西側で、舌状台地の先端部に位置する円墳である。墳丘径約八メートル、高さ約一・八メートルで、石室は南西部に開口する。

### 巣鳥古墳

豊津丘陵のやや南部で、豊津町歴史民俗資料館の西側に位置する。道路工事により、大きく破壊されたが、石室は河原石で構築されており、内部から須恵器の破片が出土した。

### 球塚古墳

僧師塚古墳の南東約四〇〇メートルに位置する。現状では墳丘は完全に消滅しているが、石室に使用されたと思われる石材が残っている。

## 台ヶ下古墳群 築造か。

### 上徳政古墳

台ヶ下古墳の北東約一キロメートルで、丘陵の東縁部にある。墳丘は頂上部がやや削られているが、以上が消滅し、三基が残存する。この三基はすべて墳丘が直径約七~八メートル、高さ約一・五メートル程度の円墳である。内部主体は河原石で構築された、单室で小型の横穴式石室である。六世紀前半の

### 宮ノ前古墳

祓川東岸の段丘のやや奥で、豊津町の北東端部に位置する。墳丘は現状で直径約一五メートル、高さ約三メートルの円墳で、未掘墳と考えられる。墳丘頂上部には稻荷神社の小祠が建てられている。前期古墳の可能性がある。

なお、北方約二〇メートルにあつた上人塚と呼ばれる小円墳は消滅している。

### 中原古墳

宮ノ前古墳の南方約一〇〇メートルの徳永地区の墓地に位置する。墳丘は直径約一一メートル、高さ約三メートルの中型の円墳である。墳丘斜面には円礫の葺石もみられる。現在墳頂部には忠魂碑が建立されており、内部の石室は盜掘を受けていない可能性がある。

### 京塚古墳群

中原古墳の南方約四〇〇メートルに位置する古墳群で、三基の円墳からなる。うち東側に所在した二基はともに径約八~一〇メートル、高さ二~三メートル前後であつたが、消滅した。西側の一基は墳丘の一部が道路で削られているが、推定復原径約一五メートル、高さ三メートルを計る。墳丘上で須恵器の提瓶が採集されており、六世紀中ごろに築造されたものと考えられる。

豊津丘陵南部の台地東端に位置する八基以上からなる古墳群である。土取りによつて五基以上が消滅し、三基が残存する。

この三基はすべて墳丘が直径約七~八メートル、高さ約一・五メートル程度の円墳である。内部主体は河原石で構築された、单室で小型の横穴式石室である。六世紀前半の

## 吹上古墳群

徳永川ノ上遺跡の南方約三〇〇メートルで、祓川の河岸段丘上に位置する古墳群である。三基以上の大円墳が所在したが、工場や宅地の造成に伴い破壊された。内部主体は横穴式石室と考えられる。なお、当古墳群の北端の神手遺跡で、石室の石材を抜き取られた古墳が一基発掘されている。

## 三ツ塚古墳群

祓川東方の広い台地を南西から北東に流れる音無川沿いの丘陵上に位置する古墳群で、航空自衛隊の基地内にある。地名からみて三基からなる古墳群と推測されるが、現在二基が残存する。二基とも墳丘は径約一五メートル、高さ約二メートルで、幅約一・五メートルの周溝がめぐる。石室は单室の横穴式石室で、玄室の規模は1号墳が長さ一・七メートル、幅一・五メートルで、2号墳が長さ一一・五メートル、幅一・七メートルである。

## イモジ古墳群

綾野地区の祓川東岸段丘上に位置する古墳群である。三基の大円墳が約二七メートルの等間隔で南北に並ぶ。うち3号墳には円礫の葺石が施されている。

2号墳は墳丘が直径約七・九メートル、高さ約一・五メートルである。石室は单室の横穴式石室で、玄室が長さ約一・六メートル、幅一・五メートルのほぼ正方形をなす。

## 頭無池西古墳群

頭無池南西の山麓急斜面に位置し、五基が墳裾を接するようにして約三〇メートル四方の狭い範囲に密集する。すべて盜掘されており、特に2号・3号・4号墳は石室も破壊されている。

1号墳は墳丘が半壊するが推定復原径約九・五メートル、高さ約一・五メートルの大円墳である。内部主体は单室の横穴式石室で、玄室が長さ一・七二メートル、幅一・二六メートル、高さ約一メートルで、墓道部が削られている。

3号墳は本古墳群中最大で、直径約一五メートル、高さ約四メートルを計る。

### 上ノ山古墳

頭無池西古墳群とは小谷を挟んで南西約五〇〇メートルの丘陵西斜面に位置する円墳である。石室は单室の横穴式石室で、玄室が長さ約一・五メートル、幅一・八四メートルと主軸に対して横長の平面形をなし、高さは約一・六メートルである。

### 白鳥古墳群

節丸地区東側の古墳群の中で、最も北側に位置する（第27図参照）。五基からなる古墳群のうち1～3号墳は盗掘による破壊が著しい。また、5号墳は未掘墳と推定される。

4号墳は墳丘直径約一二メートル、高さ約二・八メートルの円墳である。内部主体は单室の横穴式石室で、玄室は長さ約一・五メートル、幅約一・六メートル、高さ約一・八メートルで、玄門部の幅が一・二五メートルである。玄室の石積みは、奥壁が大きな一枚石を使用し、両側壁も大形の角礫を腰石にしており、六世紀後半代の築造と考えられる。

### 古門山古墳群

白鳥古墳群の南方約五〇〇メートルの丘陵南側斜面に立地する、五基の円墳からなる古墳群である（第27図参照）。うち1～4号墳は密集するが、5号墳は南西の丘陵裾部に離れている。

墳丘・石室は2号墳と5号墳が完存するが、ほかは破壊されている。

2号墳は墳丘の直径が約一一・五メートルで、高さは南側裾部から約三・二メートルである。内部主体は单室の横穴式石室で、玄室が長さ約二・八メートル、幅一・九メートル、高さ約一・七メートルで、玄門部が幅約一メートルである。奥壁や両側壁の腰石には大形の石材を使用し、持ち送りは小さい。六世紀後半の築造と考えられる。

5号墳は直径約八メートル、高さ約一・七メートルの円墳である。内部主体は单室の横穴式石室で、玄室が長さ一・七メートル、幅一・九メートル、高さ約一・八メートルで、玄門部が幅一・二三メートルである。玄室の石積みは、両側壁では腰石

がなく、床面から穹窿状に花崗岩の割石を小口積みする。築造時期は六世紀代の前半と考えられる。

### 椎ノ木山古墳群

古門山古墳群の東方約一〇〇メートルに隣接し、椎ノ木池北岸に立地する三基の古墳群である（第27図参照）。うち3号墳は林道で内部主体が破壊され、墳丘の一部のみが残存する。1号墳は直径約一〇メートル、高さ約二メートルの墳丘を持つ円墳である。内部主体は单室の横穴式石室で、玄室が長さ約三・二メートル、幅約〇・八メートル、高さ約〇・八メートルの狭長な形態をなす。石積みは、奥壁が花崗岩の一枚石、両側壁が三枚のやや大形の石材を立てている。玄室の前面には長さ約一・五メートルの墓道がつく。築造時期は古墳時代終末期の七世紀代に下るものと考えられる。

### 古門山古墳群 5号墳

古門山古墳群5号墳の南西約一〇〇メートルで、南西から北東方向に延びる丘陵先端部に位置する（第27図参照）。

墳丘は削平されて消滅し、羨門部の積み石が一部残存する。

峯ヶ辻古墳とは小谷を挟んで南東約一五〇メートルの丘陵西側斜面に立地する（第27図参照）。

円墳二基からなるが、詳細は不明である。

### 谷ヶ迫古墳

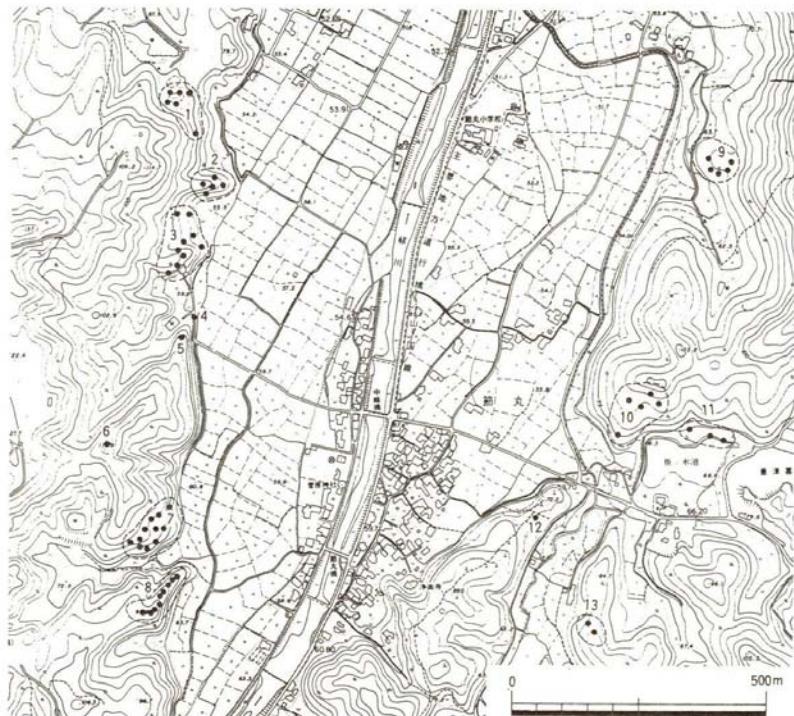
節丸地区東側に分布する古墳のなかで最も南部に位置する円墳である。谷ヶ迫頂上部に所在し、未掘墳と考えられる。

### 今村古墳

節丸地区西側の古墳のなかで最も北部に位置する。円墳と思われるが、ゴルフ場造成で消滅した。削平された土中から須恵器の大甕片が採集された。

### 在馬古墳群

今村古墳の南西約一五〇メートルの丘陵東斜面に立地する六基からなる古墳群である（第27図参照）。すべて盜掘されており、6号墳以外はすべて墳丘直径四～六メートルの小円墳である。



第27図 節丸地区の古墳分布図

第4表 節丸地区の古墳群一覧表

番号	遺跡名	種別	内 容
1	在馬古墳群	古墳群	円墳6基以上。墳丘の直径が4~10m程度の群集墳。
2	大塚北古墳群	古墳群	円墳5基以上。墳丘の直径が7~12m程度の群集墳。
3	大塚南古墳群	古墳群	円墳10基以上。1号墳は直径約20mの中規模古墳。
4	古墓山古墳	円 墳	直径20m前後の中規模古墳。ゴルフ場建設などにより消滅。
5	永迫古墳	円 墳	直径約10mの小円墳。主体部は单室の横穴式石室。
6	福ヶ迫古墳	円 墳	主体部は单室の横穴式石室。
7	山口古墳群	古墳群	古墳11基以上。9号墳・10号墳・11号墳は破壊が著しい。
8	北垣古墳群	古墳群	古墳時代の古墳9基・小石室等4基のほか、弥生時代の墓地もある。
9	白鳥古墳群	古墳群	古墳5基以上。1~3号墳は破壊が著しい。4号墳は直径約12m。
10	古門山古墳群	古墳群	円墳5基以上。2号墳・5号墳は墳丘・石室が完存。2号墳は直径11.5m。
11	椎ノ木古墳群	古墳群	古墳3基以上。3号墳は破壊が著しい。1号墳は直径10m。
12	峯ヶ辻古墳	古 墳	墳丘は消失。
13	火垣古墳群	古墳群	円墳2基以上。

6号墳は、墳丘が直径約一〇メートルで高さは東側裾部から三・八メートルである。内部主体は単室の横穴式石室で、玄室が長さ約二メートル、幅一・五メートルと小型である。

#### 大塚北古墳群

在馬古墳群の南方約一五〇メートルの丘陵先端部に立地する古墳群である（第27図参照）。五基とも直径一〇メートル前後の円墳で、石室は横穴式石室であるが、单室と複室の両方がある。

1号墳は丘陵の最も高い位置にあり、墳丘は直径約二メートル、高さ約二・五メートルを計る。石室は单室の横穴式石室で、短い墓道がつく。玄室は長さ約二メートル、幅約一・五メートルで、側辺がやや胴張りする。奥壁・両側壁とも低い腰石の上部に、七・八段石材を積み上げている。築造時期は六世紀代の中ごろと考えられる。

3号墳は墳丘直径約七メートル、高さ約三メートルの円墳である。石室は複室の横穴式石室で、南西方向に開口する。玄室の奥壁・両側壁や前室には巨石を使用している。六世紀後半代の古墳である。

#### 大塚南古墳群

大塚北古墳群の南側に連続する古墳群で、一〇基の円墳が密集している（第27図参照）。すべて盜掘され、開口している。築造時期は六世紀中ごろから七世紀前半であろう。

1号墳は通称「関のゴウヤ」と呼ばれ、墳丘が直径約二〇メートル、高さ約四・五メートルを計るやや大型の円墳である。内部主体は複室の横穴式石室で、巨石を使用し、玄室の壁石のすき間には粘土の目張りが残る。六世紀後半代の築造と考えられる。

4号墳は墳丘が直径約七メートル、高さ一・二メートルの円墳で、单室の横穴式石室と考えられる。石室内部からは、人骨とともに水晶製切子玉・碧玉製管玉などが出土している。

6号墳は直径約一二メートル、高さ一・五メートルの墳丘を持つ円墳である。内部主体は单室の横穴式石室で、玄室

床面が長さ約二メートル、幅約一メートルで、側辺がやや胴張りする。石積みは、奥壁では腰石上に角礫を五段持ち送りぎみに積み上げ、右側壁では小さな角礫を七段積み上げる。石室内からは須恵器の提瓶や鉢が出土している。六世紀中ごろの築造と考えられる。

### 古墓山古墳

大塚南古墳群の南方約一〇〇メートルで、南西から

北東に延びる小支丘を切断して築造した古墳と

考えられる（第27・28図参照）。墳丘は直径約二五メートルと推定され

るやや大型の円墳であるが、盛り土は比較的薄い。鉄剣や須恵器の出土が伝えられるが、ゴルフ場の造成などにより一回にわたり大きく破壊を受け、完全に消滅した。

### 永迫古墳

古墓山古墳の南西約三〇メートルで、同じ丘陵の先

端部に位置する（第27図参照）。墳丘は直径約一

〇メートルで、高さは斜面下位の北東側から約二メートルである。墳頂部に盗掘口があり、石室は单室の横穴式石室で、玄室の側辺部がやや胴張りする。

**福ヶ迫古墳** 永迫古墳の南西約二〇〇メートルで、同一丘陵のつけ根付近の標高一〇八メートルの高所に立地する（第27図参照）。墳丘の流出が著しく、石室は单室の横穴式石室と考えられる。



第28図 古墓山古墳（破壊後）

## 山口古墳群

福ケ迫古墳付近から南方に延びた支丘の東側斜面に密集する古墳群である（第27図参照）。一基が確認されているが、未掘墳一基を除けばすべて盜掘を受けたり、破壊されている。

2号墳は墳丘が削平されているが、石室は複室の横穴式石室である。玄室は長さ約一メートルで、幅は奥壁側で一・八メートルである。前室は長さ・幅ともに約一・一メートルである。埋土が厚く堆積するが、腰石は大形の石材を使用するようである。築造時期は六世紀後半と考えられる。

6号墳は直径約一メートル、高さ約二メートルの当古墳群中最大の円墳である。石室は複室横穴式石室である。

以上、豊津町内の確認された古墳について概要を述べたが、未調査のものがほとんどで、墳丘の規模や形態、更に石室の規模などは必ずしも正確なものではない。特に石室の構造については単室と表記したものが多いため、しばしば盜掘による開口部から盛り土が大量に流入しているため、前室を確認しにくい場合が多い。また、前室が未発達で玄室や墓道部分との幅や高さに変化が少ない場合もあり、町内の古墳全体としては北垣古墳群のように单室に比べ複室構造の古墳のほうが多いとみられる。

## 第三節 豊津の古墳時代の遺跡（古墳以外の遺跡）

弥生時代から古墳時代にかけては、農業生産にかかる単位集団は定住して生活するため、各集団の活動する領域がある程度決まっていたと考えられる。そして、大王の墓などの一部の例外的な土地利用を除くと、